

山名・山域	尾瀬沼・尾瀬ヶ原
山行目的	梅雨の尾瀬を歩く
山行期間	2016年6月17日～19日 一泊二日
参加者	1名

## 【行程表】

17日 2355 東武線浅草駅—18日 0318・0420 会津高原尾瀬ローバス—0620 沼山峠  
18日 0640 沼山峠—0745・0830 尾瀬沼 VC—三平下—三平峠—三平下—湖畔南岸—1200 尾瀬沼 VC—野営場  
19日 0655 野営場—740 沼尻—850 見晴十字路—東電小屋—1010 竜宮—牛首—1111 山ノ鼻—1220 鳩待峠  
(1230 鳩待峠—シャトルタクシー—1250 戸倉 1330—関越交通バス—1455 沼田 1514—高崎—1849 東戸塚)

## 【山行記録】

早朝の沼山峠で朝食を摂り尾瀬沼に向かう。混雑は大したこともなく、前後に人が見え隠れする程度で鳥の鳴き声が心地よい。樹林帯を下ると突然大江湿原が現れる。はるか向こうに尾瀬沼の湖面も見える。水芭蕉はピークを過ぎ、ワスレとクマドリがメインの様だ。空気が澄んで何とも気持ちが良い。快晴無風で「カムサハムニダ」。のんびり歩いても8時前には尾瀬沼ビジターセンターに着く。「水芭蕉は6月になって霜が二回降りた為、焼けた（枯れた?）」そうだ。オープンロッカーにザックを自己責任で預けて散策に出る。南岸をブラブラ歩き、三平峠を往復し、取水口を覗いたりしながら昼を待つ。ランチタイムは長蔵小屋の食堂で山菜蕎麦定食を注文し生ビールを飲む（本日の山行は終了）。この食堂（休憩所）の傍がパンフにある燈と尾瀬沼コラボの絶景ポイントだ。

幕営の受付は13時から尾瀬沼ヒュッテで木札を受取り800円を払う。予約制でウッドデッキが28か所あり「好きな処に張って良いとのこと」。テントが土汚れせず改めて「カムサハムニダ」。午後は文庫本を読みながらお昼寝タイムとする。18時を過ぎてもまだ明るい。ナンをツマミにウイスキーの吸込みの良い夜だ。

5時起床。今日も快晴・若干風あり。ゆっくりと撤収して0655出発。尾瀬沼北岸の木道に行く。沼尻平の直前で木道に熊の足跡を発見。今年は熊の目撃が多い様だ。尾瀬ヶ原へ標高差200メートルを下り樹林帯を抜ける。

尾瀬ヶ原に着いて見晴十字路を右折し暫く行く。東電小屋方向に左折。橋を渡るとリュウキンカやシクナゲが綺麗に咲いている。濃い紫の何とも艶っぽい花がアクセントをつけていてこれもよらしい。

つり橋を渡り竜宮方面に向かう。湿原を横断する形で歩き十字路を右折して山ノ鼻方向に進む。さすがに人が増えてきた。しかし前後の間隔は20～30メートル有って混雑という雰囲気ではない。

牛首分岐を過ぎ、11時過ぎに山ノ鼻に着く。空を見ると雲の流れが速い。これから天気は芳しくない方向に向かう予報だ。山ノ鼻野営場に幕営するのを中止して下山する事にする。大勢が休憩しているのでこちらも一本取り、鳩待峠を目指す。ゆるゆるとした登りの木道を歩く。人でざわつく鳩待峠に1220着。

鳩待峠からは1245発のバスを待たずしてシャトルタクシーを増発すること（バスと共通チケット930円）。相乗りして戸倉に着く。戸倉バス連絡所の裏手の「尾瀬ぶかり館」は浴槽は大きくないが露天風呂もあり良い温泉だ。さっぱりしてJR沼田—高崎—湘南新宿ライン—横浜—東戸塚で19時過ぎ自宅着。

- 至仏山は雪が少なく登山道周辺の環境保護の為、6月末まで山ノ鼻登山道は通行禁止—7月1日からの登りのみ解禁（下りには使えない）
- 燈ヶ岳の見晴新道は土石流発生の為平成25年から通行禁止で復旧の話はあるも時期未定—長英新道を使ってくれという指導あり—御池から登ると見晴に行けず尾瀬沼方向に下山となる—要注意